



学校だより

# たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和元年 5月24日

## 荒砥小学校の「ほこり」

校長 菅原 透



新しい時代「令和」が始まりました。新年度…新時代…、皆様にとっても順調なスタートとなりましたね。

さて、本校の「ほこり」といえばあいさつです。毎朝、私も計画委員と一緒にあいさつしていますが、「今日は何点？」と委員長に尋ねると、最近は合格点が連続するようになりました。「目が合わない人がいたので」等シビアな見方ができるので、信憑性はかなり高いのです。家庭・地域ではどうでしょうか。お互いにエネルギーを満たし、心が通い合うあいさつを日常化させていきましょう。

別の「ほこり」の話…

本校はごみの逃げ場がないためか、ふわふわしたごみ、黒い砂のようなごみが、廊下や階段にあっという間にたまります。掃除をしてもすぐにふわふわが現れます。「仕方ない」と片付けるのも一考。“破れ窓の法則”の如く、それを是と認めてしまえば、汚れても当たり前となってしまうのかと心配になりました。

そこで、私が校内巡視をする際にモップを持って回れば、自然とほこりが片付けられるのではないかと考えました。校長は経営者ですので、職員に指示すればよいのかもしれませんが、先生方も子ども達も授業を核とする教育活動に熱心に

取り組んでくださっていますので、私ができることを、ともに（率先して）取り組むことが肝要かと思っています。“してみせて、いってきかせてさせてみせ、ほめてやらねば人が動かじ”の格言もあります。（先生方も気づいて動いてくれます。うれしいことです。）

そのような巡視中に…

「校長先生も掃除するのですか」とメンコちゃんの男子。その後、「えらい！！」「すごい！！」その言葉に思わず笑ってしまいましたが、たくさん誉められて赤面の極み…

別の場面では、メンコちゃんの女子が、「校長先生はえらいのに、掃除するのですか。ありがとうございます。がんばってください。」

と励まされて元気百倍…。そこでふと、「この“すなおさ”と“あったかさ”は、本校の子ども達の宝だな。」と大いに納得したところでした。

子ども達は魅力的な宝物を持つ“種”。しっかり導いて芽出しする、たくさん誉めて安定した根を張らせる、ともに経験しながらたく丈夫な茎を伸ばす。それが、私達の大切な使命であると、改めて心に刻みました。学校・家庭・地域の大人総出でこの宝を「ほこり」に高めましょう。

